

BUSINESS REPORT

第28期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日

C O N T E N T S

ごあいさつ P1
財務ハイライト P2
セグメント情報 P3
中期経営計画 P5
2026年3月期業績見通しについて P7
TOPICS P8
株式の状況 P10

更なる飛躍に向けて、 革新的なソリューションの 実現に尽力します。

代表取締役 兼 社長執行役員
杉本 重人



2025年3月期 決算のご報告

当連結会計年度における世界の経済情勢について、2025年3月以降の米国の外交政策や貿易・関税政策の大きな変化や、米中間の緊張の更なる高まり等から、先行きへの不透明感が急速に高まっています。米国では、雇用や小売り等の面で堅調さが確認されたものの、経済全体としてはやや減速しており景気悪化への懸念が強まっています。中国では、景気刺激策や駆け込み輸出等から好調だったものの、物価の低迷が続いています。

当社グループの連結業績につきましては、売上高は461億8千2百万円(前年同期373億3千5百万円)、営業利益は18億2千1百万円(前年同期8億4千6百万円)、経常利益は18億9千1百万円(前年同期11億1千2百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は8億円(前年同期7億7千8百万円)となりました。

当社グループの受注金額は、527億4千7百万円(前年同期377億8千8百万円)となりました。この結果、当連結会計年度末の受注残高は436億6千4百万円(前年同期371億円)となりました。

当社グループは、社会課題を解決するイノベーションに取り組み、電子・デバイス産業の発展に寄与する様々な技術開発を推進しています。

とくに、半導体分野においては、高性能かつ高効率な半導体の開発に寄与する露光技術や検査技術の開発に注力しています。

また、当社グループは、シリコンウエハやフォトマスク、これら材料や半導体デバイス試作に高いレベルで貢献する、競争力の高い製品技術をグループに擁しています。

新たな成長期を迎え、これら技術を結集し、新たな独自製品へと昇華させ、持続的な成長を実現させてまいります。

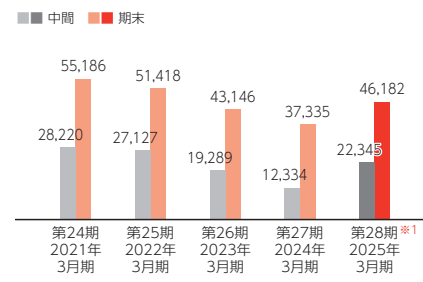
一方で、各種の事業を成長軌道に乗せ、グループ一丸で成長施策を推進するべく、監査等委員会設置会社へ移行、グループ統制力を高めるべくガバナンス機能を強化してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

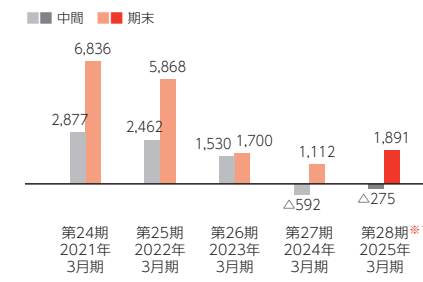
2025年6月

財務ハイライト(連結)

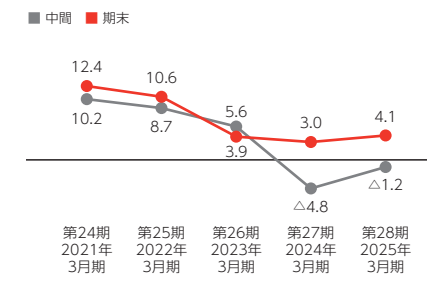
売上高 (百万円)



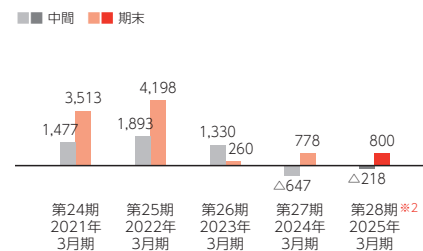
経常利益又は経常損失 (百万円)



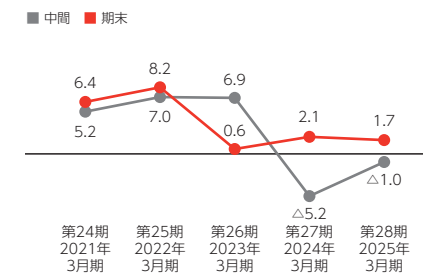
経常利益率 (%)



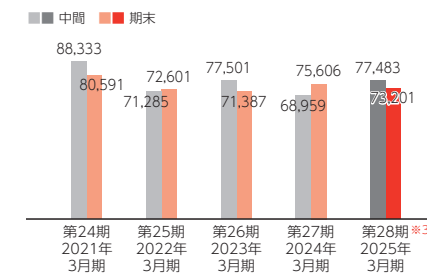
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (百万円)



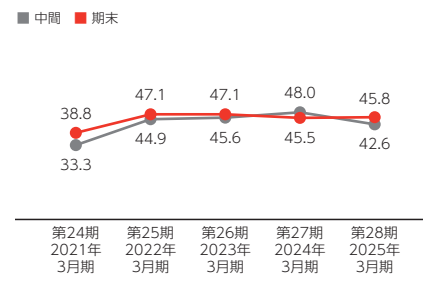
親会社株主に帰属する当期純利益率 (%)



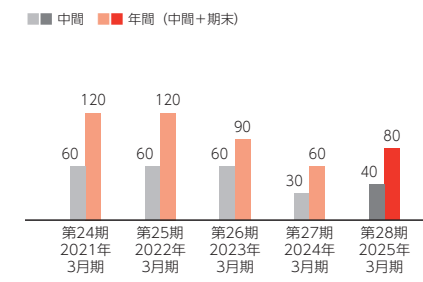
総資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



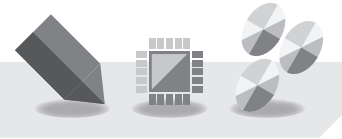
1株当たり配当 (円)



POINT

- ※1 前期比で、増収増益となりました。
- ※2 不振事業の固定資産減損により業績予想を2億円下回りました。
- ※3 売掛債権の減少、減損等による固定資産の減少により総資産が約24億円圧縮されています。

半導体・フォトマスク装置事業



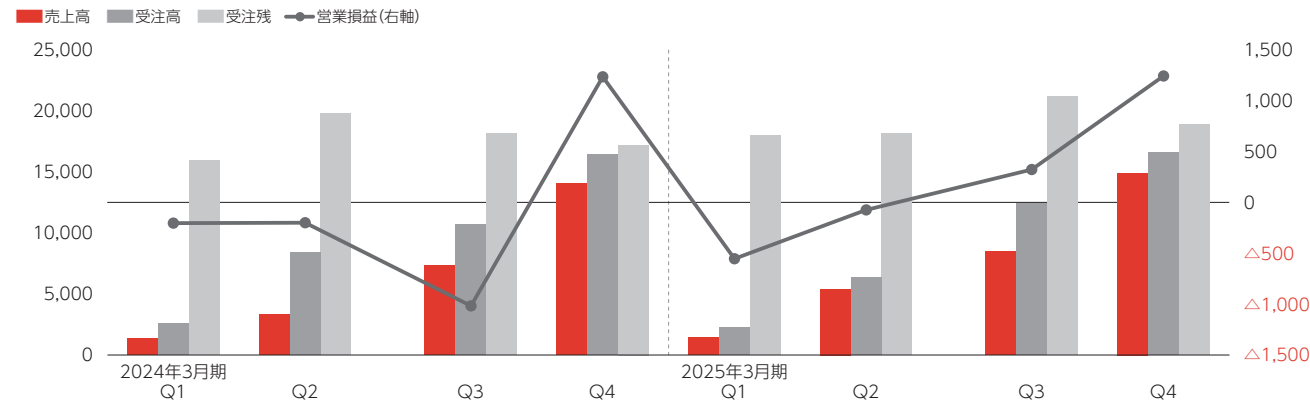
概況

半導体・フォトマスク装置事業においては、スマートフォン、ノートパソコン、汎用サーバー等の需要回復が鈍い中、AI関連は堅調に推移しました。その結果、関連する設備投資は想定を下回りました。

当連結会計年度の当社グループの半導体・フォトマスク装置事業の受注金額は165億6千2百万円(前年同期165億1千万円)、受注残高は188億5千7百万円(前年同期172億円)となりました。

また、当連結会計年度の当社グループの半導体・フォトマスク装置事業の連結業績につきましては、売上高は149億5百万円(前年同期140億5千2百万円)、営業利益は12億4千2百万円(前年同期12億3千4百万円)となりました。

業績および受注高・受注残の推移(百万円)



セグメントの構成

シリコン等のウェハ材料用の製造装置

- JAC (ジャパンクリエイト) 洗浄、エッチング
- NSS (ナノシステムソリューションズ) 検査
- Z-CSET (Zhejiang Chip Sunshine Equipment Technology) 研磨、他

フォトマスク製造装置

- Vテク (バイ・テクノロジー) 検査/欠陥修正/測定/描画

試作・分析用機器

- LTJ (リソテックジャパン) コーデベ/レジスト解析
- JAC (ジャパンクリエイト) 真空成膜
- NSS (ナノシステムソリューションズ) マスクレス露光

アドバンスドパッケージ・PCB用装置

- LET (エルイーテクノロジ) DI露光
- OHT (オー・エイチ・ティー) 接触・非接触式電気検査
- Vテク (バイ・テクノロジー) DI露光(海外メーカー協業)

FPD装置事業

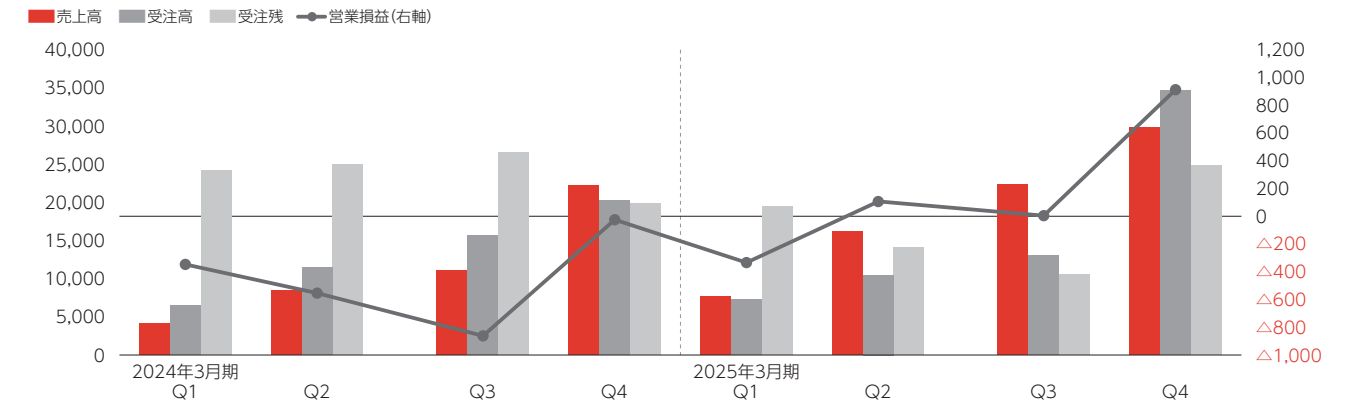


概況

フラットパネルディスプレイ(FPD)装置事業においては、パネル市況の回復等から、設備投資が想定を上回り回復しました。当連結会計年度の当社グループのFPD装置事業の受注金額は347億1千6百万円(前年同期202億5千3百万円)、受注残高は248億7百万円(前年同期198億9千9百万円)となりました。

また、当連結会計年度の当社グループのFPD装置事業の連結業績につきましては、売上高は298億9百万円(前年同期222億5千8百万円)、営業利益は9億1千2百万円(前年同期営業損失2千5百万円)となりました。

業績および受注高・受注残の推移(百万円)



セグメントの構成

OLED・LCD・他、FPD製造装置

- Vテク (バイ・テクノロジー) 露光/検査/欠陥修正/測定
- OHT (オー・エイチ・ティー) 接触・非接触式電気検査

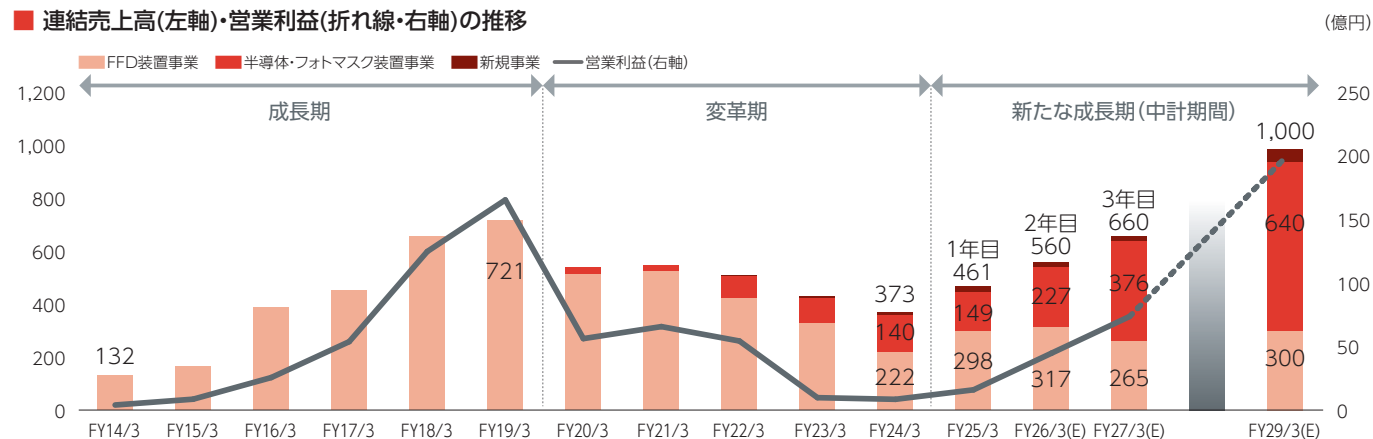
OLED用部材・サービス・他

- VET (バイ・イー・ティー) 蒸着マスク(Fine Hybrid Mask/他)
- VSC (バイ・テクノロジー・シャイン・カラーテック) 中小型OLED良品化サービス
- Lumiotec (ルミオテック) 有機EL照明の開発・製造・販売
- FLASK (フラスク) OLED材料の開発・製造・販売
- CHVT (Xianyang CHVT New Display Technology) OLED材料の開発・製造・販売

1 中計1年目の振り返りと概要

中計1年目は概ね目標通りに着地しました。さらなる飛躍に向け、様々な施策を推進していきます。

■ 連結売上高(左軸)・営業利益(折れ線・右軸)の推移



2 数値目標について

高付加価値製品を主とした製品群による、一定規模の売上高を実現し、ROE/PBR(株価)の大幅な改善を目指します。

- 中計2年目 : FPD投資は堅調、半導体関連は想定より需要が弱く、セグメント別売上高を修正しました。
- 同3年目 : FPD投資は一服、半導体はインターポーザー量産を前提にセグメント別売上高を修正しました。

指標(売上高内訳除く)	2024年3月期(実績)	中期経営計画 数値目標				2025年5月14日時点			
		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期		2029年3月期	
		前回目標値	実績	前回	新	前回	新	前回	新
売上高(億円)	373	470	461	570	560	670	660	1,000	1,000
内、半導体・フォトマスク装置事業	140	225	149	316	227	358	376	680	640
内、FPD装置事業	223	230	298	230	317	280	265	250	300
内、新規事業	10	15	14	24	16	32	19	70	60
営業利益(億円)	8.5	16.0	18.2	45.0	45.0	74.0	74.0	200.0	200.0
営業利益率	2.3	3.4	3.9	7.9	8.0	11.0	11.1	20.0	20.0
*ROE(%)	2.3	2.9	2.4	8.2	8.2	12.5	12.5	23.7	23.7

*ROEは、為替影響を織り込んでおりません。

3 米中对立の影響

対中輸出規制等への懸念が高まる状況、「中国」と「中国以外の地域」で分けて事業を推進していきます。

中国	中国以外の地域				
短期：影響は殆ど無し <ul style="list-style-type: none"> ● 現時点で注文キャンセル等、直接的な影響無し ● 当社半導体関連装置の売上高中国比率:44% ● FPD製造装置は規制対象外 ● 米国産部品の装置使用は25%未満 	重要性が増すインド・東南アジア <ul style="list-style-type: none"> ● インドにおける、LCD等の新工場投資検討 ● 2024年にベトナムにアフターサービス拠点を設立 				
中長期：「中国市場は中国市場で」 <ul style="list-style-type: none"> ● 現地化を推進し、事業を更に発展 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日本・韓国・台湾</th> <th>米国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存拠点の有効活用 ● 顧客と共同開発 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 拠点新設を検討 ● 各社へ後工程向け提案 </td> </tr> </tbody> </table>	日本・韓国・台湾	米国	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存拠点の有効活用 ● 顧客と共同開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点新設を検討 ● 各社へ後工程向け提案
日本・韓国・台湾	米国				
<ul style="list-style-type: none"> ● 既存拠点の有効活用 ● 顧客と共同開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点新設を検討 ● 各社へ後工程向け提案 				

4 内部組織の見直し

情報集約・中期受注見通し:事業機会の逸失防止と早期獲得に加え、中長期の予算計画の策定に寄与する施策を講じていきます。



FY26/3通期業績と配当の予想

FPD装置事業においては、2025年3月期をやや上回ると見込んでおります。半導体・フォトマスクの装置事業については、個人向けの製品に関連する半導体の回復が想定より伸びなかった2025年3月期と比較して2026年3月期は回復と成長が期待されています(P5、数値目標をご参照ください)。

一方で、米中対立やトランプ関税の影響について、現時点では、注文のキャンセル、納入スケジュールの著しい変更、商談の急減等の直接的な影響はございません。最終製品需要等を要因とする間接的な影響については、情報を収集精査し適切に対応してまいります。

以上から、2026年3月期の連結業績見通しにつきましては、売上高56,000百万円(前年同期比21.3%増)、営業利益4,500百万円(前年同期比147.0%増)、経常利益4,200百万円(前年同期比122.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2,700百万円(前年同期比237.3%増)を見込んでおります。

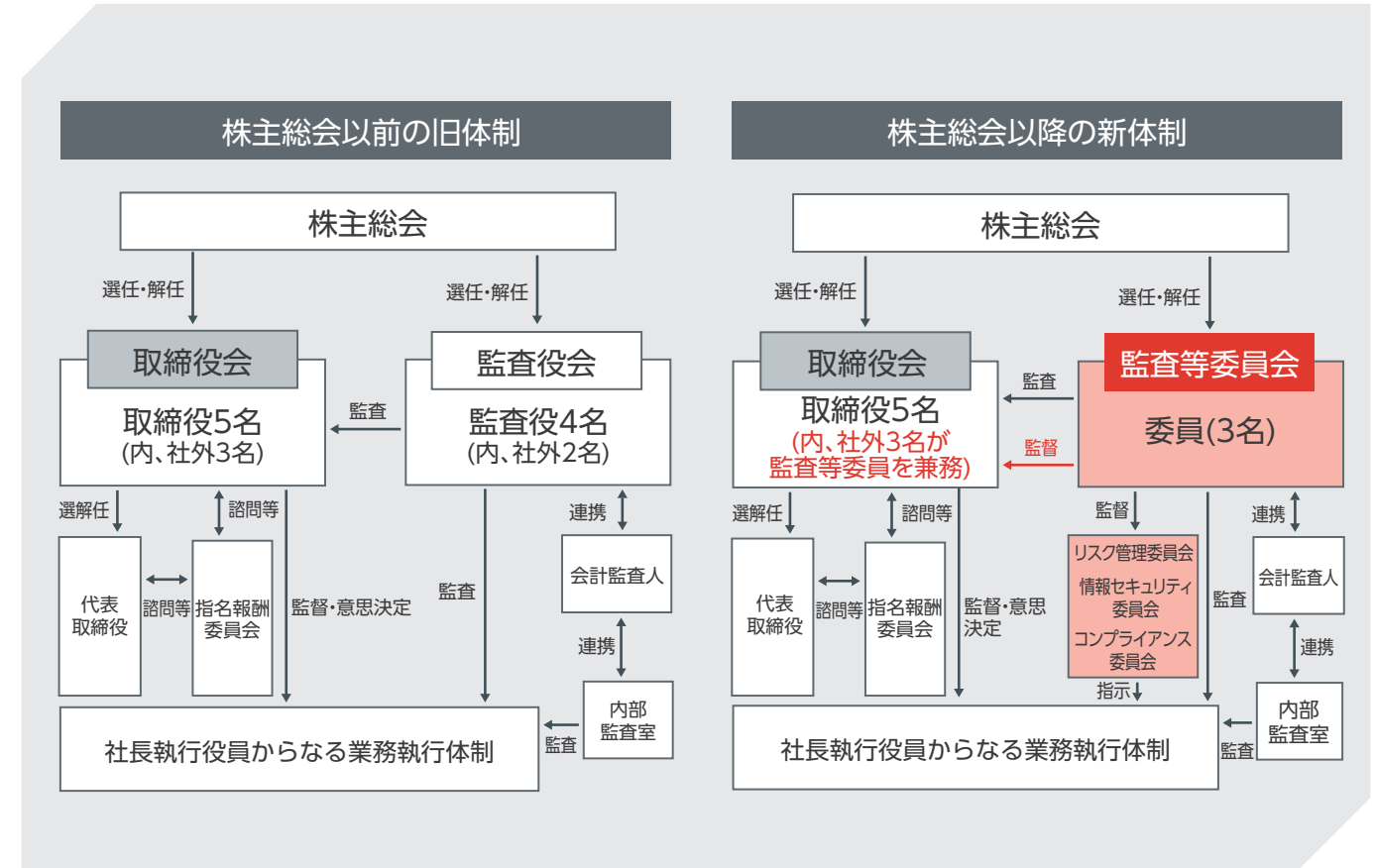
なお、当社の主力製品であるFPD用装置の輸出販売は、主に円建てで行われております。一部、外貨建て取引も行っておりますが、必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしており、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微と見込んでおります(米中対立の影響についてはP6をご参照ください)。

(百万円)	FY25/3 実績		FY26/3 業績・配当の予想	
	数値	数値	数値	前期比
売上高	46,182	56,000		+ 21.3%
営業利益 (利益率)	1,822 3.9%	4,500 8.0%		+ 147.0%
経常利益 (利益率)	1,891 4.1%	4,200 7.5%		+ 122.1%
親会社株主に帰属する当期純利益 (利益率)	800 1.7%	2,700 4.8%		+ 237.3%
EPS(円)	84.07	285.71		+ 201.64
配当(円)	中間	40	40	—
	期末	40	40	—
(ご参考) 配当性向		95.2%	28.0%	▲ 67.2%

TOPICS

監査等委員会設置会社へ移行し、ガバナンスを強化します。

- ✓ 取締役2名と社外取締役3名(監査等委員を兼務)によるコンパクトな機関設計とすると同時に、独立性を確保
- ✓ リスク管理、情報セキュリティ、コンプライアンス委員会の新設
- ✓ 半導体分野に詳しい新メンバーが加入
- ✓ 新しい知見・視点を経営判断に導入するべく、女性取締役を2名(弁護士、会計士)体制に変更



地域・社会貢献活動のご紹介

当社は、柔道の振興を通じて、青少年の健全な成長を支援しており、全日本柔道連盟への協賛や、地域の柔道家に向けた技術講習会等に取り組んでいます。

また、オリンピックメダリストの輩出を目標にブイ・テクノロジー柔道部を2020年4月1日に設立、所属する嘉重選手が世界選手権の日本代表に選出されています。

嘉重選手が柔道日本代表に選出



2024年の講道館杯、及び柔道グランドスラムの2大会での優勝実績より、嘉重選手が女子63kg級の日本代表選手に選出されました。今年6月開催のブタペスト世界柔道選手権に出場いたします。

大人柔道家への技術講習会 (志道館 文武一道塾 様 主催)



2024年11月に当社綱島柔道場にて「柔フェス大人柔道部 大人柔道家のための技術講習会」が開催され、宇高監督及び部員がコーチを務めました。

<https://www.bunbuichido.net/20241123-udakanae-oosotogari-technical-seminars-report/>

株式の状況 (2025年3月31日現在)

●発行可能株式総数	35,180,600株
●発行済株式総数	10,057,600株
●株主数	7,638名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,279,700株	13.36%
杉本重人	1,174,600株	12.27%
(株)日本カストディ銀行(信託口)	421,038株	4.39%
JPモルガン証券(株)	285,048株	2.97%
BBH CO FOR ARCUS JAPAN VALUE FUND	217,900株	2.27%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	126,071株	1.31%
PERSHING SECURITIES LTD CLIENT SAFE CUSTODY ASSET ACCOUNT	96,000株	1.00%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	86,453株	0.90%
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE	85,142株	0.88%
島根良明	82,600株	0.86%

(注) 持株比率は自己株式(484,948株)を控除して計算しており、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

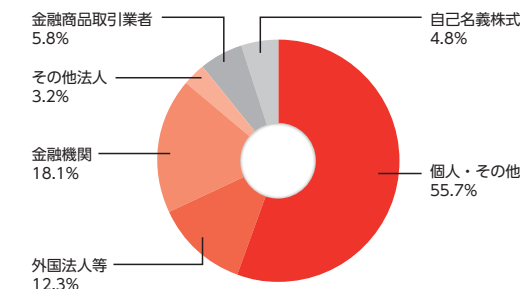
株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <https://www.vtec.co.jp>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

●株式所有者別分布



会社概要 (2025年6月26日現在*)

社 名 : 株式会社ブイ・テクノロジー
設 立 : 1997年10月16日
本 社 所 在 地 : 横浜市保土ヶ谷区神戸町134 横浜ビジネスパークウイーストタワー9F
TEL : 045-338-1980 FAX : 045-338-1781

取締役 (監査等委員である取締役を除く)

代表取締役	杉本 重人
取締役	神澤 幸宏

監査等委員である取締役

取締役	若林 秀樹
取締役	立山 純子
取締役	小川 加織

※若林秀樹、立山純子、小川加織は社外取締役です。

執行役員 *2025年6月26日開催の取締役会決議後の役員構成となります。

社長執行役員	杉本 重人	執行役員	菅井 健
専務執行役員	神澤 幸宏	執行役員	羽森 寛
常務執行役員	水村 通伸	執行役員	新井 敏成
常務執行役員	米澤 良	執行役員	内藤 剛史
常務執行役員	芳賀 一実	執行役員	山崎 邦明
執行役員	天日 和仁	執行役員	内田 幸一
執行役員	伊藤 行男	執行役員	富樫 工
執行役員	大淵 一人	執行役員	黄 洪明

WEBサイトのご案内

ニュースリリースや各種資料がご覧いただけるほか、新事業やESG等の取組みについて多数掲載しています。ぜひご覧ください。

TOPページはこちら



IR情報はこちら

